

ISSN 1347-0450

日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発行：小川正賢（国立教育政策研究所内）
〒153-8681 東京都目黒区下目黒 6-5-22
TEL：(070)5541-6615（専用 PHS）
FAX：(03)3714-0986
e-mail：jimukyoku@jsse.jp
URL：http://www.jsse.jp

2005.2.15

NO.167

科学教育研究レター



目次

- | | |
|-------------------------------|--|
| ■ 年会
第29回年会案内（第3次）..... 2 | ■ 研究会だより
平成16年度
第4回研究会開催のお知らせ.....8
第5回研究会開催のお知らせ..... 9
第6回研究会開催のお知らせ..... 9
平成16年度
第2回研究会報告.....10
購読費納入のお願い.....10 |
| ■ 若手の会 3 | ■ 会員の声.....11 |
| ■ 学会賞..... 4 | ■ 編集委員会だより.....12 |
| ■ 理事会だより..... 4
第210回理事会報告 | ■ 広報委員会からのお知らせ..... 12 |
| ■ 事務局からのお願い..... 6 | |
| ■ 会告 日英教育シンポジウム..... 7 | |
| ■ 支部会だより..... 7 | |

今夏の年会は岐阜大学で開催されます。会員の皆様はもちろん、周囲の方々をお誘いの上、奮ってご参加下さいますようご案内いたします。

- 1 年会テーマ 社会に提案し社会と協働する科学教育研究を求めて
- 2 期 日 2005 年 9 月 9 日（金）～ 11 日（日）
- 3 会 場 岐阜大学教育学部・岐阜大学共通教育（岐阜市柳戸 1-1）
・交通案内：<http://www.gifu-u.ac.jp/additional/map.html>
・キャンパス内地図：<http://www.gifu-u.ac.jp/map/index.html>
- 4 交通機関 【JR】岐阜駅までは名古屋駅から快速で 20 分程度、岐阜駅前から岐阜バス（岐阜大キャンパス線）で約 30 分（310 円、約 15 分おきに発車）、またはタクシーで約 20 分（2000 円程度）、岐阜バスの時刻表・乗り場については、次の URL をご参照下さい。<http://www.gifubus.co.jp/noriai/>
- 5 主 催 日本科学教育学会
- 6 後 援 岐阜大学、岐阜県教育委員会、岐阜市教育委員会、（財）岐阜観光コンベンション協会、学習システム研究会、他（予定を含む）
- 7 年会実行委員会組織等

実行委員長	佐々木嘉三（岐阜大学理事）
事務局長	村瀬康一郎（岐阜大学）
委 員	愛木豊彦（岐阜大学）、石渡哲哉（岐阜大学）、今井亜湖（岐阜大学）、興戸律子（岐阜大学）、尾崎浩巳（岐阜大学）、尾高広昭（岐阜大学）、加藤直樹（岐阜大学）、川上伸一（岐阜大学）、益子典文（岐阜大学）、松原正也（岐阜大学）、横山隆光（岐阜県教育委員会）
事務局連絡先	電話番号 058-293-2345（興戸・古田） FAX 058-230-1139
E-mail	村瀬康一郎（ murase@cc.gifu-u.ac.jp ） 益子典文（ mashiko@cc.gifu-u.ac.jp ）
年会ホームページ	3 月中旬に配信開始予定です。配信が開始されましたら、学会のホームページからリンクが張られます。

8 内容 次の内容を予定しています。

(1) シンポジウム

テーマ：社会に提案し社会と協働する科学教育研究を求めて

(2) 課題研究発表（学会企画）

次の 4 件を見込み、具体化を進めています。

- ① 高等科学教育関連
- ② 対話型科学技術社会関連
- ③ 特定領域研究・理数科系教育関連
- ④ 教育課程関連

また、教科「理科」関連学協議会関連の企画も検討されています。

(4) 課題研究発表（自主企画・公募中）

これまでに正式に申し込みがあったものは、次の 5 件です。

- ① 再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェアを利用した科学教育の実践的展開（3）
オーガナイザー：山口悦司（宮崎大学教育文化学部）
- ② ユビキタス社会における学習環境のデザイン
オーガナイザー：加納寛子（山形大学学術情報基盤センター）
- ③ 授業を科学する “Teaching-learning process as a Science”
オーガナイザー：遠西昭寿（愛知教育大学）
- ④ 学校と博物館・動物園等の連携 - 学校が教えたいこと、博物館が伝えたいこと -
オーガナイザー：小田泰史（蒲郡市立形原北小学校）、竹ノ下祐二（日本モンキーセンター）
- ⑤ m-Learning: モバイル環境を利用した科学教育の展開
オーガナイザー：加藤浩（メディア教育開発センター）

(5) 一般研究発表

口頭発表は 1 件あたり 20 分（発表 15 分、質疑 5 分）を予定しています。また、千葉大会で行って好評でしたので、セッションの終わりに総合討論の時間を設けることを今回も行いたいと考えております。ポスター発表については、その可能性を検討中です。

(6) 科学教育研究セミナー

学会賞受賞者など特に優れた研究をされている会員をお願いをして、これまでの研究成果や最新の動向などを1時間ほどかけて解説してもらう企画です。現在、人選を進めております。

(7) ワークショップ（教材教具の展示・演示を含む）

ワークショップ、展示、若手の会等についての企画が検討されています。

ワークショップについては、1月末時点で次の企画が予定されています。

① デジタル・コンセプトマップ入門 (3)：再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェア

企画：稲垣成哲（神戸大学）、舟生日出男（茨城大学）、山口悦司（宮崎大学）、出口明子（神戸大学大学院）

② ケータイを利用した楽しいフィールドワーク

企画：竹中真希子（大分大学）、稲垣成哲（神戸大学）、大久保正彦（神戸大学）、黒田秀子（神戸大学発達科学部附属住吉小学校）

(8) その他

以上の研究発表等のほかに、会合や懇親会、理事会や各種の委員会等が開催されます。全体行事として例年行われている総会は、本大会とは別の日程・会場で開催されます。

9 申し込みについて

詳細は、次号ならびに年会ホームページでお知らせします。

(1) 自主企画課題研究、ワークショップなどの企画

公募しています。企画をお持ちの方は、5月31日（火）までに年会担当理事である吉村忠与志（tadayosi@fukui-nct.ac.jp）または余田義彦（yoden@myad.jp）までご連絡下さい。

(2) 一般研究発表

申し込み期間は6月20日（月）～7月1日（金）とします。締め切りを例年より少し遅らせましたので、大学院生や内留中の現職の先生でも発表の準備がしやすくなったと思います。発表が少しでも増えるよう、お声かけをよろしく願いいたします。

(3) 年会論文集の原稿提出

申し込み期間と同じ、6月20日（月）～7月1日（金）とします。

(4) 発表資格・発表可能件数

一般研究および自主企画課題研究の筆頭発表者は会員でなければなりません。発表可能な件数は、一般研究、自主企画課題研究それぞれ一件です。学会企画の課題研究は別扱いです。

10 その他

(1) 参加費等

一般会員：7,000円、学生会員：5,000円（年会論文集代を含む）を予定しています。

懇親会費は一般・学生ともに5,000円を予定しています。

(2) 宿泊施設の斡旋は行いません。各自で確保して下さい。

今年もやります！！「若手の会」

今年も、年会時に「若手の会」を開催します。岐阜で集いましょう。日程・内容などは現在企画中です。決まり次第メーリングリスト等でご案内します。

メーリングリストでは、若手メールマガジンを発行しています。第1号は、森田裕介会員による「アメリカ滞在通信」でした。しばらくの間は、毎月1回、企画担当委員が順番に情報発信していこうと思います。次号は2月に発行予定です。お楽しみに。

※メーリングリストは、非会員の方でも参加できます。科学教育にご関心のある方がお近くにいらっしゃいましたら、お誘いください。

○ 登録の申込方法：担当の山口悦司会員宛 <etuji@cc.miyazaki-u.ac.jp> に、電子メールで「JSSE 若手の会メーリングリスト参加希望」とご連絡ください。

* 第29回年会「若手の会」企画担当委員：

岸本忠之（富山大学）kisimoto@edu.toyama-u.ac.jp

久保田英慈（愛知産業大学三河中学校）kubota@asu.ac.jp

森田裕介（長崎大学）ymorita@net.nagasaki-u.ac.jp

清水欽也（広島大学）kinyas@hiroshima-u.ac.jp

山口悦司（宮崎大学）etuji@cc.miyazaki-u.ac.jp

本学会の学会賞：学会賞（大塚賞）、学術賞、国際貢献賞（新たに創設された賞です）、論文賞、奨励賞及び教育実践賞を下記により募集します。すべての賞は会員からの推薦に基づいて審査されますので、ご活躍の候補者について、多数の推薦をお願い致します。

1. 推薦期限

2005 年（平成 17 年）4 月 11 日（月）（消印有効）

2. 受賞資格

- (1) 学会賞（大塚賞）：科学教育に対する優れた業績や功績によって本学会の発展に寄与した本学会会員。
- (2) 学術賞：科学教育において先導的・開拓的な業績や功績を挙げ、本学会の発展に寄与した本学会会員。対象となる業績や功績は、賞の応募締切日から過去 10 年以内のものとする。
- (3) 国際貢献賞：科学教育の国際貢献・国際協力研究において特に顕著な業績や功績のあった本学会会員。対象となる業績や功績は、賞の応募締切日から過去 5 年以内のものとする。
- (3) 論文賞：科学教育に関する優れた研究を行い、その成果を本学会の「科学教育研究」誌に発表した本学会会員。対象となる論文は、賞の応募締切日から過去 3 年以内に発表されたものとする。
- (4) 奨励賞：科学教育に関する優れた研究を行い、その成果を本学会の「科学教育研究」誌、年會論文集、研究会「研究報告」に発表した本学会会員で、受理の時点で、原則として満 38 歳未満の者。対象となる論文等は、賞の応募締切日から過去 2 年以内に発表されたものとする。
- (5) 教育実践賞：科学教育の実践研究において特に顕著な業績や功績のあった本学会会員。また、該当する本学会会員との連携により、科学教育に従事し、教育上顕著な業績や功績のあったグループ。対象となる業績や功績は、賞の応募締切日から過去 3 年以内のものとする。

3. 受賞件数

大塚賞、学術賞及び国際貢献賞の件数はとくに定めない。論文賞、奨励賞及び教育実践賞の件数は 2 件以内である。

4. 選考

本学会の学会賞選考委員会が候補者を選定し、理事会が決定する。

5. 賞

- (1) 本賞は賞状とし、副賞として記念品を添える。
- (2) 賞の贈呈は、原則として 2005 年度定時総会において行う。

6. 候補者の推薦

- (1) 候補者を推薦する者は、本学会の会員とする。大塚賞は他薦のみによるが、その他の賞は自薦も可とする。
- (2) 推薦者は、推薦の様式を学会事務局または学会ホームページから入手の上、その様式にしたがって作成した推薦書を事務局に提出する。
- (3) 奨励賞の推薦に当たり、論文などの著者が複数の場合は、受賞候補者は主著者となるため、他の全著者の承認が必要となる。この承認は、推薦者において予め得ておくものとする。

7. その他

- (1) 論文賞対象論文は、「科学教育研究」Vol. 26, No. 2 以降に掲載の論文です。
また、奨励賞の対象は、「科学教育研究」Vol. 27, No. 2 以降、研究会「研究報告」Vol. 17, No. 6 以降及び第 27 回・第 28 回年會論文集に掲載の論文が該当します。
- (2) 詳細は、学会ホームページをご覧ください。

理事会だより

日本科学教育学会第 210 回理事会報告

（議事要録承認前。要点のみ参考掲載）

日 時	2005 年 1 月 8 日（土） 14:00 ～ 17:00
会 場	国立教育政策研究所 南館会議室
出席者	会長：小川（正） 理事：赤堀、磯、磯田、伊藤、浦野、垣花、小林、坂谷内、猿田、清水、松香、 村瀬、吉川、吉田、吉村、余田 監事：大高 事務局長：吉岡 顧問：大木、三宅

1. 議事要録(案)の承認
 - 第209回理事会議事要録(案)を一部修正の上、承認した。
2. 報告事項
 - 1) 庶務
 - 国際交流委員会委員を追加委嘱した(11月22日)。
 - 2) 経理・会員
 - 会費滞納者への催促を行った(12月24日)。
 - 3) 機関誌編集
 - 第28巻第4号(英文号)第5号(和文号)の印刷中。第29巻第1号(和文号)第2号(特集号)第3号(和文号)の準備中。
 - 審査中論文16編(和文17編、英文1編)、新規投稿論文3編(和文3編、英文0編)。
 - 特集号担当編集委員会を次のように組織した(敬称略)。
委員長:伊藤 卓、副委員長:瀬沼花子、委員:飯島康之、岩崎秀樹、隅田 学、久田隆基、藤田剛志、山口悦司
 - 投稿論文数合計、前年度との比較
2003年1月から2003年12月まで 和文 54編 英文 6編 合計60編
2004年1月から2004年12月まで 和文 38編 英文 6編 合計44編
(2003年は、特集号のための論文公募を行ったことにより投稿数が増加した。)
 - 4) 国際
 - 国際交流委員会からのJICAとの協力関係について提案および報告があった。
 - 5) 広報
 - レター166号を12月15日に発行。Web版は21日。
 - 166号は一箇所誤植があったが、関係者との調整の結果訂正文などは出さないこととなった。
また、発行後に掲載依頼が来たものがあったので、Web版だけ対応したものがあつた。
 - レター167号は2月15日に発行予定。
 - 6) 年会・学会賞
 - 年会企画委員会からの報告があつた。
 - 7) 研究会
 - 第1回研究会
[テーマ] 「社会と協働する科学教育研究」
[日時] 平成16年10月29日(金)～30日(土)
29日(金):10時受付開始(予定)～15時
30日(土):9時30分受付開始～16時(予定)
[会場] 29日(金):神戸大学発達科学部附属住吉小学校
30日(土):神戸大学瀧川記念学術交流会館
[発表件数] 12件
[参加者] 約80名
 - 第2回研究会
[テーマ] 「実践で結ぶ科学教育システム」
総合的な学習の実践や課題等を中心として、科学教育の実践にかかわる研究成果の発表や情報交換を行う。
[共催] 日本科学教育学会九州沖縄支部
[日時] 平成16年11月27日(土) 10:00～16:00
[会場] 長崎大学 教育学部
[発表件数] 21件
[参加者] 41名
 - 第3回研究会(予定)
[テーマ] ITを利用した教育実践
[共催] 日本科学教育学会中国支部
[日時] 平成17年1月15日(土) 9:30～16:45
[会場] 岡山理科大学15号館4階 会議室
[発表件数] 14件
 - 8) 調査研究
 - 義務教育に関する調査を集計中である旨、報告があつた。
 - 9) 学術交流
 - 学術会議会員候補者(7名)の情報を提供した。
 - 教科「理科」関連学会協議会第9回シンポジウム(テーマ:新しい高校「理科」の枠組みについて)が、日本化学会講堂において開催された。(12月11日)
 - 日本学術会議理学振興研究連絡委員会が開催された。(12月13日)

- 理数系学会教育問題連絡会が、学力低下を懸念する要望書の中教審宛に提出した。(12月27日)
- 科研費特定領域研究「新世紀型理数科系教育の展開研究」の成果報告会(公開)(2月18、19日に日本科学未来館にて開催予定)が紹介された。
- 「理科教育振興法」は存続となった旨、紹介があった。

10) 学会 IT 化

- 年会委員会との連携のもとに、発表申し込みの IT 化の検討を継続中である。

11) 事務局

- 公開シンポジウムの実績報告書を提出(12月6日)。
- 国立教育政策研究所第4回教育改革国際シンポジウム「21世紀における「持続可能な開発のための教育」の協賛依頼の受付(12月6日)。
- レター166号を会員に発送(12月16日)。
- 学術会議会員候補者推薦書を送付(12月24日)。
- 国際教育協力シンポジウム「教育の質的改善への課題-Numeracyの育成に焦点を当てて」開催に関する後援名義使用許可の承諾書を送付(12月28日)。
- 定期刊行物のオンライン出版に関する調査依頼に回答(1月5日)。

3. 協議事項

1) 入退会希望者等について

- 入会希望者7名、退会希望者5名。
[入会希望者]

非 公 開

[退会希望者]

非 公 開

*現在会員数1,200名(正会員1,138名、学生会員46名、公共会員1名、賛助会員3名、名誉会員12名)

2) 住所不明者について

非 公 開

3) 会員名簿作成について

- 名簿の作成について検討を行ったが、次回理事会で審議の上、発行の是非および形態について決定することとなった。

4) 事務局

- 世界物理年日本委員会参加依頼への対応について
審議の結果、趣旨に賛同するものであるが、団体会員として登録することは見送り、会員には個人会員として参加できる旨、レター等で紹介を行うことにとどめることとした。

5) その他

- 昨年12月のPISAおよびTIMSSの結果発表を受けた学会としての対応について、会長から提案があった。今後、勉強会の開催を検討することとなった。
- 三宅顧問から、2月24日開催の国立教育政策研究所教育公開シンポジウムについて紹介があった。
- 会長から、科学技術振興調整費による科学技術コミュニケーター育成関係予算についての紹介があった。
- 会長から、韓国科学教育学会の動向についての報告があった。

次回第211回理事会予定 2005年3月19日(土)14時から17時

次々回第212回理事会予定 2005年5月21日(土)14時から17時

事務局からのお願い

今回レターの理事会報告に、住所不明者の一覧を掲載いたしました。ここに掲載されている会員の連絡先(電話、FAX、またはメールアドレス)を御存知の方は、事務局にご連絡ください。

日英教育シンポジウム
-情報化・国際化時代の教育交流を考える-

インターネットの普及で海外との教育交流が身近になってきた今日、学校教育の中に国際交流活動を位置づける学校が増えてきました。そこでは児童・生徒の情報リテラシー育成のみならず、英語コミュニケーション能力、異文化理解など情報化・国際化時代に対応した能力形成と学習環境の構築が試みられています。

今回、富山大学、富山商船高等専門学校が中心になって、教師間交流を行ってきている英国北アイルランドの先生方を交え、国際交流の中から見えてくる可能性や問題点から、情報化時代に対応した国際交流のあり方を考えるべく、下記のような教育シンポジウムを開催いたします。興味関心のおありの先生方の多数の参加を期待いたします。

日 時：平成 17 年 3 月 21 日（月）午後 2 時 30 分～5 時 30 分
場 所：富山大学教育学部多目的研修室
参加費：無料

コーディネータ・司会：山西潤一（富山大学）成瀬喜則（富山商船高専）

基調講演：情報化と国際化時代の教育

Wallen Ewart（元英国アルスター大学副学長）

特別講演：英国北アイルランドの情報教育

John Anderson（北アイルランド教育省 IT 政策担当部長）

パネルディスカッション：情報化時代の教育交流の可能性

David Farrell（英国教育省日本語教育主任）：北アイルランドプロジェクトへの期待

長山昌子（富山商船高専）：学習意欲を高めるテレビ会議の可能性

江守恒明（大門高校）：交流から見えてくる生徒の国際意識

黒田 卓（富山大学）：教室を世界に開く情報技術

主催：富山大学教育学部、富山商船高等専門学校

共催：富山県教育工学研究会、日本科学教育学会北陸甲信越支部

後援：富山県教育委員会

平成 16 年度九州・沖縄支部総会の報告

平成 16 年 11 月 27 日、長崎大学教育学部において九州・沖縄支部との合同による日本科学教育学会研究会が開催され、昼休憩後に九州・沖縄支部総会を行った。支部総会における主な報告事項、承認事項は以下の通りであった。

1. 平成 15 年度活動報告・会計報告。
2. 中村重太先生（福岡教育大学）の「科学教育実践賞」受賞報告。
3. 平成 17 年度支部大会を大分県で開催することが提案され、承認された。
4. 支部規定が提案され、承認された。
5. 上記支部規定に基づく支部役員が提案され承認された。

九州・沖縄支部 山路裕昭（長崎大学教育学部）

- [テーマ] 科学教育における「臨床的研究の方法」
[日時] 平成17年3月26日(土) 10:00受付、10:30開始
[会場] 静岡大学教育学部附属教育実践総合センター 〒422-8529 静岡市大谷836
静岡大学ホームページ <http://www.shizuoka.ac.jp/map/m-1.html>
[アクセス] JR静岡駅前(エクセルワード静岡ビル前)の静岡鉄道バス13番乗場から静岡大学行き
または大谷(おおや)行きに乗車し、静大前または片山下下車(所要時間約25分、日中
1時間に8本運行)
東静岡駅南口の静岡鉄道バス1番乗場から静岡大学行きに乗車し、静大前下車(所要
時間約15分、8時・9時台3本、日中1時間に1本運行)
[参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方も参加できます。当日参加も可
能ですが、資料準備の都合上、なるべく事前にお知らせ下さい。
[参加費] 『研究報告』誌購読会員は無料、当日参加者(『研究会研究報告』誌付き)は1,000円、
参加のみの方は500円、新規『研究報告』誌購読希望会員は4,000円です。
[担当] 熊野善介・久田隆基(静岡大学教育学部)
[連絡先] 〒422-8529 静岡市大谷836 静岡大学教育学部 理科教育教室 萱野貴広
Tel/Fax: (054)238-4641 e-mail: edtkaya@ipc.shizuoka.ac.jp

<プログラム>

【一般研究発表】(1発表20分)

10:30～12:00-セッション1:座長 丹沢哲郎(静岡大学教育学部)

1. 科学的思考力と言語能力を育むための初等中等理科教材の開発研究

-小・中学校理科授業での実践事例I-

○久田隆基、熊野善介、丹沢哲郎、萱野貴広、岡崎泰三、栗原誠、大塚浩、三井豊子(静岡
大学教育学部)、鈴木康浩(静岡大学教育学部附属島田中学校)、岡田朗(同附属浜松小学校)、
久保田実(同附属静岡中学校)、坂本敦(同附属静岡中学校)、天野真一(同附属静岡小学校)、
望月三起子(静岡市立清水第二中学校)、安原正樹(静岡市立安倍川中学校)

2. 初等理科教育における“身近な野鳥の生態”の教材性の検討と発展的な学習の指導を支援す
る学習材の開発

○平田昭雄・上條廣大(東京学芸大学教育学部)

3. ケータイのある教室:2つの実践事例

○稲垣成哲(神戸大学発達科学部)、竹中真希子(大分大学教育福祉科学部)、黒田秀子(神戸大
学発達科学部附属住吉小学校)、出口明子(神戸大学大学院)、大久保正彦(神戸大学発達科学部)

<総合討論>(30分)

【総会】(12:00～12:40)

13:00～14:50-セッション2:座長 熊野善介(静岡大学教育学部)

4. 科学教育・環境教育・開発教育 -変化する世界の中で-

長濱元(東洋大学国際地域学部)

5. 小学校教員養成における理科教育関連科目への心肺蘇生実習導入の試み

中山迅・飯干さや香(宮崎大学教育文化学部)、古家明子・山田美由紀・及川朋実(宮崎大学医学部)

6. 理科好き・理科嫌いな生徒の興味・態度・経験に関する比較研究

-国際比較調査ROSEの分析を通して-

○下出祥子(神戸大学大学院)、小川正賢(神戸大学)

7. 科学教育内容の変化に関する一考察 -科学教育内容選択の分析枠組みに着目して-

郡司賀透(筑波大学大学院教育学研究科)

<総合討論>(30分)

【休憩】(14:50～15:00)

15:00～16:30-セッション3:座長 久田隆基(静岡大学教育学部)

8. 再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェアの機能拡張に関する実践的評価

-小学校第4学年「状態変化」におけるブックマーク機能利用場面の相互行為分析-

○出口明子(神戸大学大学院総合人間科学研究科)、稲垣成哲(神戸大学発達科学部)、山口悦司(宮
崎大学教育文化学部)、舟生日出男(茨城大学人文学部)、竹下裕子(神戸大学発達科学部附属住
吉小学校)

9. 科学概念学習における生徒評価と授業設計の関係に関する研究

-生徒評価のツールを中心に-

久保田英慈(愛知産業大学三河中学校)

10. アメリカ・カナダにおける理科現職教育のためのe-learningシステム利用の現状と課題

熊野善介(静岡大学教育学部)

<総合討論>(30分)

【備考】日本科学教育学会東海支部会と共催します。

平成16年度 第5回研究会開催のお知らせ 発表募集と参加への誘い
第3部会：科学教育ICT研究部会

- [テーマ] 科学教育における「ICTを活用した授業の創造と展望」
授業における教育システム・メディアや遠隔教育等の教育方法の研究、教科教育や学習内容に関わる情報活用教育などや、科学教育の実践に関わる研究成果の発表および情報交換を行なう。
- [日時] 平成17年4月23日(土) 10:00～16:00(予定)
- [会場] 福山大学人間文化学部 〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵
福山大学ホームページ <http://www.fukuyama-u.ac.jp/>
- [アクセス] JR福山駅南口徒歩バス乗り場、キャスパビル前、バス乗り場15番より福山大学直通バス(所要時間約30分)
JR松永駅前からスクールバス(所要時間10分)
自家用車の場合、山陽自動車道福山西インターからおよそ10分
ホームページを参照下さい：<http://www.fukuyama-u.ac.jp/gaiyo/access.html>
- [発表申込方法] テーマにかかわるものを中心としますが、それ以外の一般研究発表も歓迎いたします。研究発表題目、氏名・所属(共同研究者を含む、複数場合は登壇者に○をつける)、使用機器、連絡先(住所・電話・E-mail)、発表概要を電子メール、FAX等にて、下記連絡先までお知らせ下さい。折り返し、『研究報告』誌原稿執筆要項等をお届けします。
- [発表申込締切] 平成17年2月24日(木)
- [原稿提出締切] 平成17年3月24日(木)
- [参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方も参加できます。当日参加も可能ですが、資料準備の都合上、できるだけ事前に電子メールでお申し込み下さい。
- [参加費] 『研究報告』誌購読会員は無料、当日参加者(『研究会研究報告』誌付き)は1,000円、参加のみの方は500円、新規『研究報告』誌購読希望会員は4,000円です。
- [担当] 三宅正太郎(福山大学人間文化学部)
- [連絡先] 〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵
福山大学人間文化学部人間文化学部 メディアコミュニケーションコース
三宅正太郎(内線3445)、中橋 雄(内線3444)
Tel(084)936-2111(内線3445)/Fax(084)936-2021
e-mail:mamiyake@fuhc.fukuyama-u.ac.jp

平成16年度 第6回研究会開催のお知らせ 発表募集と参加への誘い
第4部会：科学教育人材養成研究部会

- [テーマ] 「科学教育人材育成の課題と展望」
学校教育現場だけでなく、行政・民間企業・NPO等各現場が求める時代や地域のニーズに応えた人材育成の課題と展望について、科学教育の視点から研究成果の発表や情報交換を行う。
- [共催] 日本科学教育学会北陸甲信越支部
- [日時] 平成17年5月14日(土) 10:00～16:00
- [会場] 上越教育大学(<http://www.juen.ac.jp/>) 〒943-0834 新潟県上越市山屋敷町1番地
- [交通] 上越教育大学への順路
◆ 信越本線「高田駅」下車、高田駅近くの本町6丁目停留所から教育大学線のバスに
乗車(約15分)教育大学下車。「高田駅」から、タクシーで約10分。
◆ 北陸本線・信越本線「直江津駅」下車、直江津駅前停留所から教育大学線のバスに
乗車(約20分)教育大学下車。「直江津駅」から、タクシーで約15分。
- [発表申込方法] テーマにかかわるものを中心としますが、それ以外の一般研究発表も歓迎いたします。研究発表題目、氏名・所属(共同研究者を含む、複数場合は登壇者に○をつける)、使用機器、連絡先(住所・電話・E-mail)、発表概要を電子メール、FAX等にて、下記連絡先までお知らせ下さい。折り返し、『研究報告』誌原稿執筆要項等をお届けします。
- [発表申込締切] 平成17年3月18日(金)
- [原稿提出締切] 平成17年4月15日(金)
- [参加・参加費] 発表者以外でも参加できます。当日参加もできます。参加費は、『研究報告』購読会員は無料、当日会員(『研究報告』付き)は1,000円、参加のみは500円、新規購読会員は4,000円です。
- [担当] 小林辰至・藤岡達也(上越教育大学)
- [連絡・問合せ先] 〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地 上越教育大学 自然系教育講座
小林辰至 Tel/Fax: (025)521-3434 e-mail:tkoba@juen.ac.jp

日本科学教育学会平成16年度 第2回研究会開催報告

標記の研究会（インタレスト部会Ⅰ）は、平成16年11月27日（土）10時30分～16時、長崎大学教育学部内の2教室を会場として開催された。

今回の研究会は、昨年度の佐賀大学における第3回研究会と同じテーマ「実践で結ぶ科学教育システム」で、総合的な学習の実践や課題等を中心として、科学教育の実践にかかわる研究成果の発表や情報交換を行うことが目的であった。研究発表は全体で21件（プログラムは、レターNo.165、pp.13～14に掲載）行われ、参加者は合計41名であった。

テーマに直接かかわる発表として、渡辺（宇宙航空研究開発機構）は、中学校の総合的な学習の時間に行った宇宙を扱った授業の経験からいくつかの知見を明らかにし、田中（長崎大・附属中）らは、総合的な学習の時間の中に設定した「自己探求」の一つ「分析化学入門」の実践とその成果について報告した。佐藤（福岡・小倉工業高）は、総合的な学習の時間を利用した課題研究における過電流防止装置製作の実践について報告した。

また学習指導法や教材の開発に関連して、椎窓（福岡教育大・院）らは、コミュニケーション能力を高めるために実施した授業に基づいて学習指導改善に関するいくつかの知見を明らかにした。稲垣（福岡・桜原小学校）らは、一枚ポートフォリオを利用して「学びの心的エネルギー」の高まりを看取る可能性を明らかにし、清永（福岡教育大）らは、都市の中の化石マップを作成し、その教材化について論究した。隈元（宮崎・上新田中）らは、ウニの受精卵に冷却処理を施す方法とその有効性を明らかにし、土田（鹿児島大）らは、近赤外線タイムラプス撮影による雲の動画教材について報告した。

IT活用に関して、瀬戸崎（長崎大・院）らは惑星模型コンテンツの作成とその利用可能性を明らかにし、山口（宮崎大）らは、再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェア（あんどう君）の機能拡張について報告した。南（宮崎・広原小学校）らは、反復再生可能型描画システムPolkaによる描画と観察・実験の組み合わせの有効性を明らかにし、福松（宮崎大・附属中）らは直流回路の授業におけるPolkaの有用性について明らかにした。また、携帯電話の教育利用に関して、黒田（神戸大・附属住吉小）らは、カメラ付き携帯電話を利用した学習支援システムを導入した授業実践について報告し、竹中（大分大）らは、小学生の保護者を対象に実施した携帯電話の利用状況とそのモラル等に関する実態調査の結果を報告した。

学力について、隈元（宮崎大・付属中）らは、中学生を対象としてTIMSSの論述課題を実施し、中学生の記述学力の問題点や指導上の留意点を明らかにし、比永田（福岡・下大利小）らは、戦後の問題解決学習期に行われた学力調査の分析から今日の問題解決による学習を活性化させるための留意点について論究した。

さらに軸丸（大分大）らは、ガスバーナー操作に関する調査結果等から小中高で連携した理科授業の必要性を指摘し、日高（宮崎・大淀川学習館）は、子どもとその親について虫の好き嫌いを調べ、「昆虫嫌いの子どもの親は昆虫嫌いである」ことを指摘した。また、小山（宇宙航空研究開発機構）らは、高校生を対象とした「第3回 君が作る宇宙ミッション」の概要を報告し、下村（佐賀・塩田工業高）らは、地域の小中学校における科学実験イベントの効果について報告した。中村（福岡教育大）は、福岡県におけるエネルギー環境教育の実践状況について報告し、いくつかの課題と今後のエネルギー環境教育への支援のあり方について論究した。

これらの研究発表に見られるように、今回の研究会は、総合的な学習に直接かかわるものが昨年と比較してかなり減少しており、当初の目的から見れば若干残念なことであった。しかしそれに代わってより幅広い分野のさまざまな実践や研究の成果が発表され、参加者からの活発な質問等によって研究会としては活気あるものであった。参加者各位の熱意とご協力に感謝したい。

（文責：長崎大学教育学部 山路裕昭）

平成16年度日本科学教育学会研究会『研究報告』誌購読費納入のお願い

研究会「研究報告」購読料の請求（払込取扱票同封）を行ったところです。下記の口座へお振込み頂きますようお願いいたします。購読料（年会費）4,000円です。平成16年度の会計年度は、平成16年7月1日～平成17年6月30日となります。なお、ご自分の振込み状況を知りたい方は tkoba@juen.ac.jp へメールでお問合せください。

日本科学教育学会 研究会事務局

研究会事務局（全体・諸連絡）

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1 上越教育大学自然系教育講座 小林辰至

TEL&FAX：(025)521-3434 e-mail：tkoba@juen.ac.jp

研究会事務局（編集・印刷）

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1 上越教育大学学習臨床講座 藤岡達也

TEL：(025)521-3500 e-mail：fujioaka@juen.ac.jp

○発表申込先：開催校担当者または研究会事務局（全体・諸連絡）

○原稿送付先：上越教育大学 藤岡達也 宛

○『研究報告』誌購読費（年会費4,000円）振込先：郵便局払込取扱票にて

加入者名 日本科学教育学会 口座番号 00170-6-85183

○研究会ホームページ：<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsse2/activity/session/index.htm>

前号で、土田理会員（鹿児島大学）が小学校理科の改善に関するジレンマを提起され、それに対する地域での独自の取り組みをご紹介下さった。非常に興味深く読ませていただいた。とりわけ、「理科を専科の先生に任せると理科に対する苦手意識を持つ教師が増大する可能性がある」という論点には、思わずハッとさせられた。今後も、この問題に関する研究や議論が発展することを期待するが、そのような議論を行うための前提として、私は、日本の初等中等学校における理科教師の配置状況の変遷を頭に入れておくといいたいと感じている。次の表は、文部科学省の「学校基本調査」「学校教員統計調査」のデータから個人的に作成し折に触れて眺めているものである。会員の皆様の考察や議論の参考になれば幸いである。

日本の初等中等学校における理科教師の配置状況の変遷

年度	1974	1977	1980	1983	1986	1989	1992	1995	1998	2001
[小学校]										
児童数 (千人)	10089	10820	11827	11739	10665	9607	8947	8370	7855	7366
学校数	24606	24777	24945	25045	24982	24851	24730	24548	24376	24106
教師総数 (千人)	394	424	456	458	435	425	420	410	397	387
男性教師 (%)	46.2	44.6	43.9	44.8	44.9	43.8	41.4	40.0	38.7	38.4
女性教師 (%)	53.8	55.4	56.1	55.2	55.1	56.2	58.6	60.0	61.3	61.6
教員養成系学部卒業生 (%)	25.8	29.7	34.8	39.6	45.6	52.4	57.1	57.8	57.8	57.9
他学部卒業生 (%)	10.3	12.5	15.8	18.8	21.7	22.1	22.0	23.9	25.3	26.6
旧制高校・師範・短大等卒業生 (%)	63.9	57.8	49.4	41.6	32.7	25.5	20.9	18.3	16.9	17.5
中学校教員免許状取得者 (%)	58.4	59.7	59.6	61.8	63.2	64.2	65.2	64.9	64.0	63.9
理科専攻教師数	-	-	-	35700	31800	31000	29400	28700	28200	28200
男性理科専攻教師数	-	-	-	24400	21500	20800	18100	17400	16800	16200
女性理科専攻教師数	-	-	-	11100	10300	10200	11300	11300	11400	12000
学校当りの理科専攻教師数	-	-	-	1.43	1.27	1.25	1.19	1.17	1.16	1.17
[中学校]										
生徒数 (千人)	4736	4977	5094	5707	6106	5619	5037	4570	4481	4104
学校数	10802	10723	10780	10950	11190	11264	11300	11274	11257	11209
教師総数 (千人)	222	240	247	267	281	276	270	259	254	242
男性教師 (%)	71.6	69.6	68.4	67.4	66.5	65.6	63.3	62.2	60.8	60.5
女性教師 (%)	28.4	30.4	31.6	32.6	33.5	34.4	36.7	37.8	39.2	39.5
教員養成系学部卒業生 (%)	29.0	31.2	31.5	32.6	35.4	39.2	40.9	39.5	39.1	39.6
他学部卒業生 (%)	28.0	31.5	36.6	43.0	46.6	47.6	48.7	51.3	52.5	52.8
旧制高校・師範・短大等卒業生 (%)	43.0	37.3	31.9	24.4	18.0	23.4	10.4	9.2	8.4	7.6
小学校教員免許状保持者 (%)	27.8	25.0	23.1	22.1	24.8	25.1	27.9	27.4	27.0	25.7
理科教師総数	38900	41700	39000	41900	42900	39000	37300	35900	34000	32900
男性理科教師数	-	-	-	36500	37600	33500	31800	29900	27800	26900
女性理科教師数	-	-	-	5400	5100	5500	5400	5700	6200	6000
学校当りの理科教師数	3.60	3.89	3.61	3.83	3.83	3.46	3.30	3.18	3.02	2.94
[高等学校]										
生徒数 (千人)	4271	4381	4622	4716	5259	5644	5218	4725	4371	4165
学校数	4916	5028	5208	5369	5491	5512	5501	5501	5496	5478
教師総数 (千人)	217	229	243	251	268	278	278	274	266	256
男性教師 (%)	83.4	82.5	82.3	82.1	81.3	80.6	79.5	77.7	76.1	74.8
女性教師 (%)	16.6	17.5	17.7	17.9	18.7	19.4	20.5	22.3	23.9	25.2
教員養成系学部卒業生 (%)	16.2	19.6	20.0	16.0	18.0	19.4	19.0	17.9	18.4	17.4
他学部卒業生 (%)	43.5	59.8	61.7	68.3	72.9	76.5	77.9	79.2	78.9	80.4
旧制高校・師範・短大等卒業生 (%)	40.3	20.6	18.3	15.7	9.1	4.1	3.1	2.9	2.7	2.2
理科教師総数	35700	37000	37600	37200	39700	39200	37600	36400	33700	31400
男性理科教師数	-	-	-	???	36900	36200	34200	33200	30200	27800
女性理科教師数	-	-	-	???	2500	3000	2900	3200	3500	3600
学校当りの理科教師数	7.26	7.36	7.22	6.93	7.23	7.11	6.84	6.62	6.13	5.73

(文部(科学)省 学校基本調査・学校教員統計調査による。1974年版では、小学校の調査対象は公立校のみ。1983年版の高校理科教師数の男女別は、統計値が誤りである可能性があるため算出を控えている。)

1月8日(土)(12:00～14:00)、第4回編集委員会が国立教育政策研究所において開催されました。第3回編集委員会議事録の確認、編集状況の報告の後、(1)新規投稿論文の査読者について、(2)特集号について、(3)編集内規の改定(英語校閲の取り扱い)について、(4)第29巻1号以降の巻頭言・編集後記の執筆者選定について討議いたしました。

(1)については、資料に基づき3編の新規投稿論文の査読者を決定いたしました。(2)については、特集号の執筆者の検討を編集委員会のMLで早急に依頼することになりました。(3)の英文校閲の取り扱いについては、次回の編集委員会において編集委員会内規の見直しの形でとりまとめることになりました。(4)については、第29巻第1号の巻頭言を吉川厚先生、編集後記を小川治雄先生、第29巻第3号の巻頭言を久田隆基先生、編集後記を清水美憲先生にお願いすることになりました。(5)その他として、「査読の仕方」の文章表現を若干訂正することが了承されました。今後、さらに「査読の仕方」全体の見直しを行うことになりました。

最近1年間の学会誌の編集状況は、下の表の通りです。皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

次回の編集委員会は、平成17年3月19日(土)、国立教育政策研究所で開催する予定です。編集委員会に対するご意見等がございましたら、お知らせ下さい。

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況 (平成17年1月24日 現在)

年 月	新規投稿論文数		掲載決定論文数(掲載号)		掲載拒否(辞退)論文数
	和 文	英 文	和 文	英 文	
2004年 1月	6		6(28-1)	1(28-4)	2(2)
2月	3		2(28-2)		(1)
3月	5	1	1(28-2)		1
4月	1		2(28-2)		
5月	1	1	1(28-3)		
6月	7	1	5(28-3)		2
7月	5	1	2(28-3)		
8月	2		1(28-5)		3
	1		2(28-5)		1(1)
9月	2	1	4(28-5)		(1)
10月	2		1(28-5)		
11月	1	1	1(29-1)	1(28-4)	2(1)
	2		3(29-1)		1
12月	1		1(29-1)		1
	2		3(29-1)		
2005年 1月	2	1	3(29-3)	2(28-4)	1
			1(29-3)		

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第167号を、お送りいたします。お気づきの点などございましたら、次のアドレスまでお知らせください。メールアドレス：jsse-pr@itl.k.u-tokyo.ac.jp

担当理事： 吉川 厚 (NTTデータ)、磯 哲夫 (広島大)
 委 員： 大辻 永 (茨城大)、川本佳代 (広島市立大)、銀島 文 (金沢大)
 清水欽也 (広島大)、杉本雅則 (東京大)、隅田 学 (愛媛大)
 高垣マユミ (鎌倉女子大)、高藤清美 (筑波女子大)、人見久城 (宇都宮大)
 森田裕介 (長崎大)、山口悦司 (宮崎大)
 幹 事： 竹中真希子 (大分大)

科学教育研究レター編集・印刷

〒153-8681 東京都目黒区下目黒 6-5-22 国立教育政策研究所内 日本科学教育学会広報委員会
 TEL:(070)5541-6615 FAX:(03)3714-0986 e-mail: jsse-pr@itl.k.u-tokyo.ac.jp